

I B P 粒剤 キタジン P 粒剤	取扱メーカー： クミカ、サンケイ*、琉産 原体メーカー： クミカ
成分： I B P〔有機リン系 PRTR・1 種〕……………17.0%	性状： 類白色細粒 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

- 有効成分が根から吸収され、稲体内へ移行し、いもち病の病斑、生長部位へ集積する。
- いもち病に対する防除効果の発現は施用後4～5日後から現われ、稲体内の有効成分の濃度は7～14日後に最高に達する。
- いもち病の他紋枯病、小粒菌核病、スクミリンゴガイにも有効である。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

〈葉いもち〉

- 発生予察情報に留意し、予測初発期の7日前から、遅くとも発病初期までに施用する。

〈穂いもち〉

- 水面施用の際は散布後数日間は完全に止め水状態にする。I B Pは比較的水溶解性が高いので、湛水は必ずしも保持されなくてもよい（間断灌漑中などはヒタヒタ水があればよい）。
- 火山灰土壌の水田では、有効成分が土壌に吸着されやすいので、10 a 当りの使用量は多い方（5 kg）を施用する。（適用土壌砂壤土～埴土）。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 多発時の紋枯病、小粒菌核病には効果が劣ることがある。
- 散布後少なくとも3～4日間は3～5 cmの湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
- 雨露などで茎葉の濡れているときは散布をさける。
- 稈長は短くなることがあるが収量への影響はない。
- 葉いもち及びスクミリンゴガイの防除に当っては、使用時期、使用方法などについて病害虫防除所など関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 砂質土壌、漏水の多い水田での使用はさける。

【安全対策上の注意】……………

- 魚類、甲殻類に影響を及ぼすので、使用時並びに使用後も注意。



【適用と使用法】……………

作物名	適用病害虫名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	I B Pを含む農 薬の総使用回数
稲	いもち病	3～5 kg	葉いもちに対しては 初発7日前～初発時 穂いもちに対しては 出穂7～20日前	2回以内	散布	3回以内 （粒剤は 2回以内）
	紋枯病		出穂7～20日前			
	小粒菌核病					
	スクミリンゴガイ		本田初期			